

# 市民協働事業 相互評価シート

## 市民協働事業の概要

事業名称	とつか区民活動センター運営事業		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 くみんネットワークとつか	
	行政	横浜市	
事業の目的	市民活動、生涯学習活動及びボランティア活動の支援を通して、市民の理解と参画のもとに、区民力の向上と豊かな地域づくりを図る。		
事業の内容	<p>団体と行政が協働でとつか区民活動センター及び戸塚区役所3階情報コーナーにおいて次の事業を実施する。</p> <p>(1) 活動団体のネットワーク化</p> <p>(2) 活動の支援</p> <p>(3) 地域・利用者の声をセンターの運営に反映させる仕組みづくり</p> <p>(4) 場の提供</p> <p>(5) 情報の提供</p> <p>(6) 企画事業の実施</p>		
役割及び責任 分担等	協働契約書第8条の規定に基づき、次に掲げる役割を分担し、その役割についてそれぞれの責任で事業を行なう。		
	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	受託者・委託者が共に果たす役割	<p>1 事業運営に関する情報共有</p> <p>2 定期的な共同会議の開催</p> <p>3 第三者（利用者・事業運営評議会等）の意見や提案についての協議・検討</p>	
	事業全般に関すること	<p>1 事業への市民認知度を上げるための広報活動等</p> <p>2 相談スタッフのスキルアップを図るため、スタッフ間の情報共有及び研修機会の提供</p>	<p>1 認知度を上げる広報活動等への協力</p> <p>2 スタッフへの研修情報提供</p>
	活動団体のネットワーク化	<p>1 市民や団体同士が交流する機会や場の提供</p> <p>2 区内、市内の施設や団体等とのネットワーク構築</p>	<p>1 関係機関との連絡調整</p> <p>2 ネットワーク構築及び推進に必要な情報提供</p>
活動支援 (相談・コーディネート等)	<p>1 適切な相談対応により市民ニーズや課題を把握</p> <p>2 把握したニーズや課題に応じて次の事項等を行うことによる市民の課題解決の手助け</p>	<p>1 市民活動支援のための助成金等の情報提供</p> <p>2 市民ニーズや課題解決に必要な情報を受託者とともに的確に把握し、事業運営に反映</p>	

		(1) 情報提供 (2) 適切な機関や人につ なぐ (3) 活動団体の立ち上げ (4) 新たなしくみの構築	
	場の提供	1 わかりやすく、利用し やすいルールづくり 2 利用しやすい雰囲気づ くり	1 施設の利用方法等に ついて受託者と協議 し、方針決定
	情報の提供	1 市民活動等に関する情 報をより多く収集し、市 民や行政に提供 2 広報紙の発行 3 ホームページを開設 し、市民活動等の情報提 供	1 区広報紙面の確保 等、広報機会の協力 2 行政にかかわる情報 を受託者に提供、共有 し、事業運営に協力
	企画事業の実施	1 活動入門事業の実施 2 ネットワーク事業の実施 3 スキルアップ事業の実施 4 その他活動支援につな がる事業の実施	1 事業実施支援
実施期間	平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日		

記入日	令和 2 年 4 月 30 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体等名： 特定非営利活動法人 くみんネットワークとつか</li> <li>・記入責任者 氏名： 中嶋 伴子 連絡先： 045-825-6773</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名： 戸塚区地域振興課</li> <li>・記入責任者 氏名： 岩崎 広之 連絡先： 045-866-8416</li> </ul>

## 事業評価相互検証シート

### 事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・協働契約書の仕様書の内容に基づいて年間事業計画を策定し、事業開始前に共有できた。
- ・年度の重点目標「新たな活動者の開拓」を共有し、事業の趣旨・目的・必要性などを改めて検討し、計画づくりを行った。
- ・企画事業の三本柱をインキュベーション（活動入門）事業、エンパワーメント（活動力アップ）事業、ネットワーク（連携促進）事業とし、今までの事業を整理した。
- ・地域施設間連携促進事業においては、区役所内の3つの所管と連携し計画を進めた。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・今後も、日頃から情報の共有や課題の共有を図ることが、スムーズな計画作りのために必要である。

### 事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・役割分担を明確にしたなかでも、互いにアドバイスやサポートを行いながら協力体制を維持し事業を実施するができた。
- ・定期的なスタッフ会議や連絡会の開催により、スムーズな情報共有と顔の見える関係性ができ、センター運営全般における方向性についても共有することができた。
- ・10回目を迎えた「とつかお結び広場」は盛況に終了したが、11回目に向け、さらに充実したイベントにしていくために、運営方法を検討することを共有した。
- ・高齢者や外国の方の相談が増加傾向にあり、今後の対応が必要である。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・今後も日頃から良好なコミュニケーションを心掛け、困ったときは助け合える関係性を維持していくことが必要である。
- ・「とつかお結び広場」は、地域活動の紹介、出展者同士のつながりの創出という本来の目的を、改めて三者（運営委員会、とつか区民活動センター及び行政）で共有し、三者協働のもと事業を推進することが必要である。
- ・高齢化、国際化社会に対応した新たな事業や運営方法の検討が必要である。

### 事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- ・第10回とつかお結び広場では、運営委員会ととつか区民活動センター、行政とのきめ細かな協力体制により、安全でかつ快適な会場運営を行うことができた。
- ・地域施設間連携促進事業では、区役所の3つの所管と連携し、参加施設に共通する課題を捉え企画を行った。1回目の研修会では活動の現場訪問を行い、前年度の講座の中で事例として挙げられた活動を見学したことで、連続性のある内容となり、参加者の好評を得た。2回目の講座では、事前に参加施設を対象に行ったアンケートを参考に、共通のテーマを設定し、ワールドカフェ方式で情報交換や意見交換を行った。具体的なテーマを設定したことで、各施設の間で取組みが比較でき、運営の参考となるものも多く、参加者の満足度も非常に高かった。また、今年度もとつか区民活動センターと地域ケアプラザとの連携講座を2回開催するなど、新たな協働が生まれている。